

第5回 まち・ひと・しごと創生戦略会議 議事要旨

日時	平成28年1月28日(木) 13時00分～14時20分
場所	小牧市役所 東庁舎5階 大会議室
席者	<p><b>【本部長】</b></p> <p>山下 史守朗 小牧市長</p> <p><b>【委員】</b></p> <p>安藤 仁 名古屋鉄道(株) グループ統括本部 事業企画部 企画担当部長</p> <p>伊藤 博美 名古屋経済大学 人間生活科学部 准教授</p> <p>桑原 かおり (株)ゲイン メナージュケリー編集長</p> <p>田中 理絵 ママラボ代表</p> <p>坪井 俊和 大城児童館 館長</p> <p>土方 裕美 アレルギーっ子のつどい クリスマスローズ代表</p> <p>小塚 智也 こども未来部長</p> <p><b>【コーディネータ】</b></p> <p>石田 洋一 (株)電通コンサルティング</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>伊木 利彦 市長公室長</p> <p>舟橋 逸喜 市長公室次長</p> <p>宇野 嘉高 市長公室 秘書政策課長</p> <p>舟橋 朋昭 市長公室 秘書政策課係長</p>
傍聴者	8名
配布資料	<p>資料1 委員名簿、配席表</p> <p>資料2 小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略案</p> <p>資料3 小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略案における施策及びKPI一覧表</p> <p>参考資料1 小牧市人口ビジョン案</p>

■主な内容

1. 開会

(1) 市長あいさつ

第4回戦略会議において、委員の皆さまからマッチングビジネスの可能性や子どもを預けられる安心感が住む理由に直結する点、待機児童対策すれば好循環が生まれるなど貴重なご意見をいただいた。

本日は最終回となり、これまでの皆さまからいただいた議論をもとにお示した総合戦略案について忌憚のないご意見をいただきたい。

## 2. 議題

### (1) 小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略案について

#### 【安藤委員】

- ・名鉄小牧線の乗降客数を KPI とすることについては、その前提である人口の増加だけでなく、人口構成の変化についてもモニターしていった方がいい。

#### 【田中委員】

- ・資料 2 の 10 ページにおける KPI 『理想とすることどもの数と、実際のこどもの数が同じ市民の割合』は、国でもアンケート調査を行っているが、なかなか向上していない。これは、経済的な理由だけでなく、結婚年齢の高齢化の問題など、センシティブな問題もあるため、達成が難しいと思われる。したがって、この KPI は削除した方がよいのではないか。

#### 【山下本部長】

- ・全体的に挑戦的な目標設定をしているという認識である。合計特殊出生率の向上については、自治体レベルではなく国の施策として取り組んでいくべきと考えている。

#### 【田中委員】

- ・チャレンジの想いは良いが、市の取組み効果を測る KPI としてはどうなのか。

#### 【坪井委員】

- ・この KPI の表現は、お子さんが欲しい方への配慮が必要である。

#### 【伊藤委員】

- ・資料 2 の 10 ページにおける (1) の主な取組み③や④の効果を測る KPI として、「相談件数」などが把握できるのであれば、そういった指標を置くのもいいのではないか。

#### 【山下本部長】

- ・KPI としていろいろな切り口がある中で、確かに「相談件数」も重要な指標の 1 つであると思うが、ここに記載する KPI とするのか、サブとしてモニタリングすべき指標であるのかを考えていきたい。

#### 【桑原委員】

- ・資料 2 の 10 ページにおける「市が支援した出会いの場を創出する事業におけるカップル成立数」について、カップルが成立しても小牧市に住まなければ意味が無いので、事業によって成立したカップルが小牧市に住んだかどうかを把握できないか。

#### 【田中委員】

- ・事業によって成立したカップルが、その後、小牧市において婚姻届を出すと、何か特典があるというようなつながりがあった方がよいが、それまでずっと追っていくのは、難しいかもしれない。

#### 【山下本部長】

- ・資料2の15ページにおける基本目標4の数値目標は、目標値が累計となっているが、この目標はすぐに結果が出ないため、累計での達成は困難であると考えてるがどうか。

#### 【田中委員】

- ・「〇%改善」といった目標設定の方がいいかもしれない。

#### 【坪井委員】

- ・効果が出るまでに時間がかかるものは、改善が実感できるわかりやすいものを設定した方がいいのではないか。

#### 【安藤委員】

- ・例えば、基本目標4については、社会増を達成したとしても、若者が増えずに高齢者が増加することは、目指す方向と違うことになると思うため、20～40歳代に絞った指標だけにしてもいいのではないか。

### 3. 閉会